

うたたね★クラシック

TOKYO
MUSIC
EVENING

Yube

2021年6月25日(金) 19:00 開演

うたたねクラシック初の東京公演!

それも池袋の野外劇場だなんて!

もう堅苦しいことは抜きにして、その瞬間の振動に身を委ねましょう。
夜空に浮かんだ五線譜に、星の音符を並べたら、どんなメロディーが聞こえてきますか。
私はパジャマで参加します!素敵な夕べになることを願って。

ふかわりょう

エルガー：愛の挨拶 op.12 [遠藤真理, 三船優子]

ドビュッシー：夢 (夢想) [三船優子]

モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」より“恋とはどんなものかしら” [林美智子, 遠藤真理, 三船優子]

メンデルスゾーン：歌の翼に [林美智子, 三船優子]

サン＝サーンス：白鳥 [ふかわりょう, 遠藤真理, 三船優子] 朗読+演奏

ショパン：ノクターン [三船優子]

サティ：ジユ・トゥ・ヴ [林美智子, 遠藤真理, 三船優子]

ロジャース / 加藤昌則編曲：サウンド・オブ・ミュージック・メドレー [林美智子, 遠藤真理, 三船優子]



ふかわりょう Ryo Fukawa (ナビゲーター Navigator)

1974年8月19日生まれ。神奈川県横浜市出身。慶應義塾大学在学中の94年にお笑い芸人としてデビュー。長髪に白いヘアターバンを装着し「小心者克服講座」でブレイク。後の「あるあるネタ」の礎となる。「シュールの貴公子」から「いじられ芸人」を経て、現在は「バラいろダンディ」のMCや「ひるおび!」のコメンテーターを務めている。また、ROCKETMANとして全国各地のクラブでDJをする傍ら、楽曲提供やアルバムを多数リリースするなど、活動は多岐に渡っている。NHK-FMのクラシック音楽番組「きらクラ!」ではパーソナリティを、遠藤真理とともに2012年から務めていた。最新著書：エッセイ「世の中と足並みがそろわない」

遠藤 真理 Mari Endo (チェロ Cello)

第72回日本音楽コンクール第1位、2006年「プラハの春」国際コンクール第3位(1位なし)、08年エンリコ・マイナルディ国際コンクール第2位。ジャン・ピエール・ヴァレーズ、小林研一郎、山田和樹など国際的に活躍する指揮者やウィーン室内管、プラハ響、ザルツブルク・ゾリステンらと共演するなど国内外で高い評価を得ている。ソリストとしてだけでなく読売日響のソロ・チェロ奏者も務める。CDはエイバッククラシックから7枚リリースされており、テレビや映画演奏の他に、2012年から8年間NHK-FMラジオ「きらクラ!」(全国放送)のパーソナリティを務めるなど幅広く活躍中。2009年齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

オフィシャル・ホームページ：<http://endomari.com>



©Yusuke Matsuyama



©Toru Hiraiwa

林 美智子 Michiko Hayashi (メゾ・ソプラノ Mezzo-soprano)

東京音楽大学卒業。桐朋学園大学研究科、二期会オペラスタジオ、新国立劇場オペラ研修所第1期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンに留学。2003年国際ミトロポーロス声楽コンクール最高位。第5回ホテルオークラ音楽賞受賞。二期会、新国立劇場を中心に数多くのオペラに出演、チョン・ミョンファン、パーヴォ・ヤルヴィなど国内外の指揮者と主要オーケストラにも共演を重ねる。また「コジ・ファン・トゥッテ」や「フィガロの結婚」などオペラを自らプロデュースするなど人気、実力ともに群を抜くメゾ・ソプラノとして活躍する。CDは、「赤と黒」「地球はマルイゼ〜武満徹:SONGS」、「ベル・エクサントリック〜林美智子ベル・エボック歌曲集」をリリース。オフィシャル・ホームページ：<https://hayashimichiko.themedia.jp/>

三船 優子 Yuko Mifune (ピアノ Piano)

1988年第57回日本音楽コンクール第1位。桐朋学園大学首席卒業後、ジュリアード音楽院留学。91年カーネギーホール及びリンカーンセンターにおいてアメリカ・デビュー。同年フリーナ・アワーバック国際ピアノコンクール優勝。19年にはデビュー30周年記念リサイタルを行い、その技術と深い演奏解釈で絶賛された。14年よりドラム・パーカッションの堀越彰と“OBSESSION”を結成。レコーディング、海外公演、アウトリーチなどで新たなファン層を広げる。古典から現代音楽に至る幅広いレパートリーに定評があり、シャープで切れのあるタッチと繊細で品格の美音、華のあるダイナミックな演奏は、ファンを魅了し続けている。京都市立芸術大学准教授。

オフィシャル・ホームページ：<http://www.yukomifune.com/>



©Akira Muto